

学校法人西条栄光協会 認定こども園

西条栄光幼稚園

文化財的保存改修2018-2020

1951 浦辺鎮太郎設計



当時の工事中の写真(1951-54年 栄光教会アルバムNo.1)



第一園舎中庭側(改修前)



第一園舎屋根(工事中)



渡り廊下(解体中)



開放廊下(工事中)

西条栄光幼稚園について

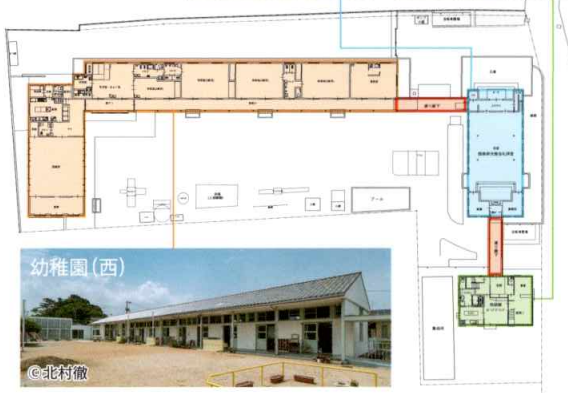
西条栄光教会の建築群は、南海地震(昭和21年)で地盤沈下した廃田を石灰ガラで埋め立てた上に建っています。北東の堀端に礼拝堂、南側に牧師館、西側に幼稚園があり、どの建物も白壁で統一されています。三棟は園庭を囲むように渡り廊下で繋がっており、お堀と調和して佇んでいます。

幼稚園は、礼拝堂や牧師館と同じ昭和26年に建築され、昭和39年に木造二階建ての第二園舎が、昭和54年にリズム室と教材倉庫が増築されました。

礼拝堂と同じ日本瓦の切妻屋根を持ち、リズム感ある窓と白壁で統一され、東側は礼拝堂と繋がる渡り廊下がファサードを成しています。一方、園庭側は水平連続窓や列柱によるピロティ風の開放廊下など、近代的なモダニズム様式を取り入れています。建築当時は開放廊下に天窗が設けられており、廊下を介した教室に、より多くの自然光を取り入れようと計画されていました。また、当時を振り返る寸描には、園庭は細やかなビロードの芝生であったと記されています。

西条栄光教会
建築群 配置図

2020.07



建築家 浦辺 鎮太郎(1909-1991)

岡山県出身。京都帝国大学建築学科時にフランクロイドライトの高弟である遠藤新に師事し、影響を受ける。倉敷レイヨンに入社後は営繕部門に勤務し、大原總一郎の構想するまちづくりを支え、倉敷市に多くの作品を残した。(作品:倉敷国際ホテル、西条郷土博物館、愛媛民藝館、倉敷アイビースクエア、大仏次郎記念館)、
浦辺鎮太郎建築展(生誕110周年)

西条栄光幼稚園の歴史

昭和26年(1951)9月10日	クラレ西条工場の従業者を対象とした幼稚園として西条栄光幼稚園が開園
昭和28年(1953)3月20日	西条栄光幼稚園が愛媛県知事認可の認可幼稚園となる
昭和51年(1976)4月1日	幼稚園の経営が宗教法人西条栄光教会から学校法人西条栄光協会に移管される
令和2年(2020)4月1日	幼保連携型認定こども園に移行、「認定こども園 西条栄光幼稚園」となる

継続的文化財保存改修として

西条栄光教会建築群は2015年7月に保存再生調査、2018年11月に牧師館改修工事を終えました。また2018年は牧師館改修工事と併行して、幼稚園を認定こども園とする計画を始動。企画設計と特記仕様書をもとに設計を開始し2019年7月に一般競争入札を公告し8月に着工しました。西条栄光幼稚園には確認申請済の朱印の付いた青焼き図・増築図面・写真アルバム・建設経過など資料が多数残っており、竣工当時や改変などの整理は事業期間の制約などもあり工事中においても続きました。計画にあたっては、

牧師館同様に文化財として当時の建築へ戻すのではなく時間を経て改変されてきた部分を受け入れ、今後も使い続けることをテーマとして、幼稚園から認定こども園へ移行することを保存改修と新設を対比させながらも階層的に繋げることに取り組んでいます。最も近代的なスタイルを意識した浦辺氏の想いと、歴代の卒園児と保護者や教育者・教会員の方々の思い出を未来へと繋げていけることを願っています。

2020.04 西条栄光幼稚園改修設計共同企業体